

Go-Ahead 2

<http://toyono-jinjikyo.com/>

平成 30 年度 (2018 年度)
子ども主体の授業づくり①
(中堅教諭等資質向上研修)

第 2 回の 10 年経験者研修は、二部に分けて行いました。前半は、國學院大學の田村学先生の動画『新しい学習指導要領において期待される学び』を視聴し、その後意見交流をしました。小学校は、平成 32 (2020) 年度より、中学校は、平成 33 (2021) 年度より全面実施となる次期学習指導要領。動画では、学習指導要領改訂の方向性やポイント等、実践例と結び付け解説がありました。

研修の後半は、次回の初任者の先生方との合同研修 (コラボ研) に向け、授業づくりを柱としたワークショップを行いました。

～ 振り返りシートより ～

変化の激しい社会の中を生きる子どもにとって、学びに向かう力はとても大切だと感じました。今までのようなインプット中心(教え込み)の学習ではなく、子どもが興味を持てるような課題を設定することで、子どもは自ら動き出す。そのような導入を心がけ、学びに向かう力を高めていきたいと思いました。また、めあてをこちらが提示するだけでなく、子どもたち自身がめあてを自ら持てるような導入をしていきたいと思います。主体的・対話的な学びのためには、何よりもまず学級が安定していることが大切だと思いました。自分の考えが受け入れてもらえるという土壌がなければ、いかに導入の工夫などしても主体的・対話的な学びにはなっていないだろうと強く思いました。授業づくりと学級づくりは別々のものではなく、相互に作用し合っていくことを改めて認識できました。グループで協力して、初任者の方の力になれるようがんばりたいと思いました。

教師は、子どもたちに INPUT するだけでなく、子どもたちが OUTPUT しなくなる様々なしかけを行うことが求められていることがわかりました。それが主体的・対話的・深い学びになるのだと思います。他校の先生と取組みを交流すると、いろいろな発見があるので刺激になります。グループ交流では、対話的な取組みがたくさん聞くことができ勉強になりました。今回得たことを自分自身の糧にしたいと思います。次回、8月20日ががんばります。

課題を設定し、子どもたちに問いを持たせることで、主体的にそして意欲的に子どもたちが学習に取り組める機会をつくることができると改めて気づきました。どの先生方もクラスの安心ルールや仲間づくりを基本とし、授業を行っているということがわかりました。子どもたちが安心して自分の考えを持ち、学びを深めていける環境をつくっていききたいと思います。

講義型の授業ではなく、アクティブラーニングだと言われているが、改めてなぜ必要なのかということがよくわかりました。ただ暗記するだけだと INPUT はできて知識は増えるが、思考して OUTPUT することができない。生きる力、学んだことをこれからの生活に活かせる学びを作っていくことが大切だということを実感しました。「なぜ?」「わかった!」という時の子どもたちの学びたいという意欲の大きさはすごいです。そのような授業を設定していかなければならないと思いました。

子どもの課題設定は多くの先生が悩んで、工夫しているのだとしみじみ思いました。アプローチの仕方も小・中違うので、いろいろな教科や学年の先生と話げたのは良かったです。ディスカッションは大切ですが、その前の INPUT をしっかりしなくては中身のある OUTPUT ができないので、日々の集団づくり、授業を大事にしたいと思います。

“コラボ研に向けて、班で相談していく中で、改めて自分の授業づくりについて改善すべき点が再確認できました。”——これは、ある先生の振り返りシートの一文です。次回のコラボ研では「先生が教え込む授業」から「子どもが学びとる授業」をテーマに、初任者の先生方との合同研修となります。双方に学びのある充実した研修となるようお願いを込め準備しています。

～お知らせ～

動画 1 は独立行政法人教職員支援機構の研修教材として Web 上に公開されています。何度でも視聴できますので、是非学校でも利用いただき、校内全体の授業づくりに役立ててください。選択研修の受講は、計画どおりに進んでいますか? まだの人は、この機会に早めに計画の見直しと変更をおこなしましょう。受講後の報告書の作成も忘れずをお願いします。